尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース vol.09

- message：石川智信 JADC 副会長 × 土井勝幸 JADC 副会長
- event report： リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019
- deep inside：JADC 研修会詳細
- meet our friend：医療法人おまち整形外科医院地域リハビリテーションセンター

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

リハビリテーションの原点は、本人と家族の希望を紡いでいくこと。

JADC 副会長
医療法人三友会理事長 いしかわ内科 石川 智信

全国のデイ・ケア協会の会員の皆様、明けましておめでとうございます。私が暮らす宮崎は昨年零下の気温に一度もならず、温暖化を実感していました。今年も暖冬で、昨年新調したコートの出番が全くなく、無駄遣いをしてしまったと後悔しています。

さて昨年は、その宮崎で全国デイ・ケア研究大会を開催させていただき、多くの方々にご参加いただきました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。今回は近藤新会長の下で行われました最初の大会でした。と同時に、斉藤前会長のこれまでの大変なご尽力の足跡に思いを馳せる大会でもありました。20年以上斉藤先生の下で理事を務めさせていただいておりましたが、デイケアに対する溢れんばかりの情熱に当初は面食らうばかりでした。

しかし介護保険の下でデイケアが通所リハビリテーションと名を変えた後も、デイ・ケア協会の社会的地位を上げるために奔走され、本会は社団法人化して厚労省のヒアリングの対象にまでなることができました。その斉藤先生が会長職を退かれるとお聞きした時には、私も一緒に理事職を退任しようと考えていました。しかし近藤新会長が私を副会長に指名された時、まだこの会での役割を十分に果たしていないという思いと共に、無床診療所のデイケアの代表としての立場から提言をしていく人間も必要であろうと考え、お受けすることにしました。遠い宮崎の地であり、またわずか2人の医師で外来医療・訪問診療を行っているため、理事会への出席も不可能なことがありますが、近藤新会長を少しでも支えられるように頑張っていきたいと思います。

私自身はリハビリテーションとは縁の薄い消化器内科が専門でした。癌の終末期の方が自宅で過ごしたいという思いに応えたいと大学病院を辞し、開業してから25年が経過しました。しかしながら訪問診療だけではご家族の負担を取ることはできません。昼間だけでもお預かりして、リハビリテーションを通じてＡＤＬの改善を図ることでご家族とご本人を支えていくことができればと考え、開業して1年後にデイケアを開所しました。この25年の間にご自宅で看取らせていただいた患者様は800人を超しました。中には亡くなる1～2週間前までデイケアに通い続けた方もいます。本人がデイケアでの交流を人一倍楽しみにされていたため、ご家族が可能な限り連れていきたいと希望され、それに応えました。高齢者のリハビリテーションや、がんの終末期の患者様のリハビリテーションは、身体活動を飛躍的に改善させることは困難です。ただリハビリテーションを通じて希望を持ち続けることや、デイケアに集う同じ境遇の方たちの存在が心の支えになるということが、その人の尊厳のある生き方を支援できると思っています。デイケアの果たすべき役割についての議論は介護報酬との関係からこれからも厳しいものになっていくと思われます。しかしリハビリテーションの原点は本人と家族の希望を紡いでいくことにあるということは、決して忘れずにいたいものです。

最後になりましたが、会員の皆様方のこの一年のご多幸をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

皆様と共に「デイケア」の普遍的機能を生かした新しい未来を創造。

JADC 副会長
介護老人保健施設せんだんの丘 施設長 土井 勝幸

令和の声を聴いたばかりの昨年5月11日、長年に亘り全国デイ・ケア協会を会長として導いていただきました斉藤正身先生が名誉会長に就任され、新たに近藤国嗣先生が会長となり、私も当会の副会長に任命されました。

私は、当会の前身となる全国老人デイ・ケア連絡協議会の頃より、研修会・研究事業等の仕事をさせて頂き、平成25年4月の法人化以降は6年間理事を拝命し、主に研修事業の担当理事として活動して参りました。

私は作業療法士ですが、多職種が研鑽を積む研修会のあり方を模索してきました。それは私自身のライフワークでもある“多職種連携”こそが真の地域生活支援を機能させる方法であると確信しているからです。当会の研修企画をご覧いただければ分かりますが、可能な限り多職種が受講できる研修内容であり、一つのテーマを多職種で学び、それをそのまま多職種で実践することが出来るように配慮されています。これは、斉藤名誉会長が常々表現をされていた、多機能・多目的、そして多職種で関わるからこそ、多様な課題を持ちながら生活している方々に適切な支援が出来る、それが「デイケア」の重要な役割であり、魅力であるという当会の理念に通じるものなのです。

また、私自身も介護老人保健施設を軸に据え、実践者として通所リハビリテーション・通所介護事業を展開してきました。通所リハでは、平成12年から始めた短時間型サービス、重度者の積極的な受け入れ態勢強化、通所サービスからの修了（卒業）への取り組み、生活行為向上リハ・認知症短期集中リハ等の実践、地域の受け皿としての「活動と参加」を柱に据えた介護予防型通所介護事業、地域の自主グループ育成、地域包括支援センターとの連携機能の強化等々、多くのチャレンジをし、地域に定着させてきました。そして今最も力を入れているのが、通所リハと地域の通所介護や訪問介護との生活機能向上連携加算を活用した連携です。「デイケア」としての役割を果たすために、取り組める、取り組む必要のあることにどん欲に突き進んできた20年間でした。

これらの活動を支えてくれたのも、当会の活動を通じて得られた調査研究等の知見や研修会等で培った人との繋がりであり、様々な気付きが得られる機会が大きかったのです。だからこそ、当会の活動に興味を持ち、積極的にご参画をいただき、先人の皆様が積み上げてこられた「デイケア」の歴史を踏襲し、次の時代に向けた新しいチャレンジを会員施設の皆さんと取り組んで参りたいと願っているのです。

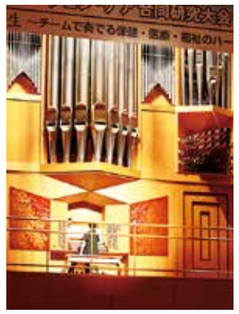
そのためには、当会のネットワーク強化（会員施設増）が最重要課題です。まだ仲間に加わっていない事業所の方がご覧になられているならば、是非入会をいただき様々な当会の活動にご参画いただけないでしょうか。近藤会長のもと、石川副会長、当会理事、各委員、そして会員施設の皆様と共に「デイケア」の普遍的機能を生かした新しい未来を創造し、形にする作業を一緒にしてみませんか。

イベント レポート

リハビリテーション・ケア合同研究大会 金　沢 2019

響生。チームで奏でる保険・医療・福祉のハーモニー。
全国から北陸に 2,000 名を超える参加者が集まり、職域を越えて共生の世界を再確認。

リハビリテーションとケアに関わる全国６つの団体が一同に集まるリハビリテーション・ケア合同研究大会が 2019 年 11 月 21、22 日の２日間石川県金沢市にて開催されました。主幹となった特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンターでは２年以上前から研究大会で示したい方向性、具現化したいビジョンなどについて運営スタッフ全員が時間をかけて熟考し話し合いを重ね、大会テーマを決める作業から開始しました。



～要支援介護者が増加した日本では障害のありなしにかかわらず、全ての人が地域社会の中でその人らしく生活していくことが重要となる。そのためには、すべての人が社会で共に生きる「共生」社会の構築が大きな力となる。障がいのある方だけでなく医療・介護・福祉のスタッフ、そして社会全体が心を響かせ互いの理解と協働のもとに良いチームとなってひとつにまとまると上手くいくのではないか？

すなわち「共生」からお互いの心の響きも大切にする「響生」を目指し、明日の共生社会を支える多くの成果が得られる大会にしたい。～

こんな思いにまとまり大会テーマを「響生」と決めて準備を進め、全国津々浦々から「響生」の構築にチャレンジを続ける著名な講師を招聘することができました。最終的に公開講座２、講演 12、当院企画によるシンポジウム５、主催団体によるシンポジウム６、ランチョンセミナー６を開催することができました。そして 785 の一般演題の発表があり参加者は 2,000 名を超え、大変実りの多い研究大会となりました。

公開講座は日本理化学工業株式会社、代表取締役社長である大山隆久氏による「働く幸せ実現のために社員から教わったこと」と茨城県立健康プラザ管理者、大田仁史先生による「いきいき元気な高齢社会」が行われました。

働く社員の７割が知的障がい者である日本理化学工業株式会社。社員の長所を生かしお互いが助け合って補い合い働くこと、常に職場環境を配慮して働きやすくすること、など幸せな働き方についてご講演があり多くの反響がありました。大田仁史先生はネガティブなイメージが付きまとう「老い」と「死」を真正面から捉え、明るく楽しく生きていく高齢者の実例が語られ、参加者から大変勇気づけられたとの感想が寄せられました。

主催団体 シンポジウム

通所リハビリテーションにおけるサービスの質の向上を目指した、業務改善を考える

リハケア 2019 @金沢で主催団体によるシンポジウムが開催され、JADC では岡野英樹 JADC 理事が座長としてシンポジウムをリードした。JADC では厚生労働省の研究事業である「介護サービスにおける生産性向上に資するガイドライン」の作成に携わったが、その研究事業に携わった３施設の実践を通しての事例を紹介、討論した。

登壇した長江翔平厚生労働省老人保健課課長補佐の本事業の概要と意図を解説した後、高橋洋子（小倉リハビリテーション病院南小倉デイケアセンター主任）、山本江吏子（介護老人保健施設 鴻池荘 / リハビリテーション部課長）、外口徳秀（霞ヶ関南病院・通所リハビリテーションデイリビングマネージャー）がそれぞれの施設における事例を紹介した。限られた人員の中で生産性の向上は各施設の大きな課題であり、参加者は皆前のめりで事例に耳を傾けた。

次頁では、参加者の感想と当事業の情報を紹介する。

「共生社会の実現に向けた私たちのチャレンジ」をテーマとしたシンポジウムでは社会福祉法人佛子園理事長雄谷良成氏、特定非営利活動法人デイサービスこのゆびとーまれ理事長惣万佳代子氏、株式会社ほっとリハビリシステムズ代表取締役松井一人氏の３氏に御登壇いただき「高齢者も、若者も、子どもも、障がいのある方もない方も、ごちゃ混ぜで楽しく暮らせる町」「老いても病めても、安心して暮らせる街」など障がいの有無、年齢に関係なく全ての人がお互いを尊重して生活できていることが紹介され「響生」が具現化されている実例を直に拝聴することができた、大変有意義なシンポジウムとなりました。紙面の都合上すべて紹介でできませんがその他の講演、シンポジウムも内容が濃く意義あるものばかりで、一般演題含め全ての会場が活気に満ちていたことが印象的でした。発表してくださった皆様に運営スタッフ一同心より感謝申し上げます。

またシンポジウム３では、シンポジストの一人がインフルエンザに罹患し急遽 Zoom を使用したインターネット配信にすることが本番前日に決まりました。突然の方針決定に運営スタッフは前日夜遅くから準備、リハーサルを行いましたがまるで最初からインターネット配信にすることが予定されていたかのようにスムーズであったと感想があり、結果的に今後の学会のあり方に一石を投じる貴重な実例にすることができました。

運営スタッフ、協賛いただいた企業の皆様、協力病院の皆様、その他大会の運営に協力していただいた全ての皆様のおかげで成功裏に終了することができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

特定医療法人社団勝木会
やわたメディカルセンター
リハビリテーション科 池永 康規

活動×参加

毎号、全国各地から様々なイベントに参加した方々の声をお届けしている“活動と参加してみた”。今回は３名のご登場です。自身で受けた刺激を自身の施設でフィードバックに期待しています。

活動と参加してみた! @ リハビリテーション合同研究大会 金沢 2019

再発予防をどう意識付けしていくか。

今回、リハビリテーション・ケア合同研究大会に参加し、様々な講演や発表を聴講させて頂いたことで、色々な意見や考えに触れることができました。その中の一つに、地域で取り組む健康社会のために回復期から生活習慣病の是正改善に導いていく必要があることを学びました。

私は現在、外来リハビリテーションに従事しており、患者様の主訴や希望、さらに個人の生活状況に合わせた理学療法を行っていますが、対象者の多くが生活習慣病を背景として持っているため、再発予防を患者本人やご家族にどうやって意識付けしていくか日々悩んでいました。しかし、本研究大会では、その手掛かりが見つかったと感じています。さらに、今回得た知識を今後の臨床に活かしていきたいと思います。

東京湾岸リハビリテーション病院
理学療法士 島根 颯也

活動と参加してみた! @ リハビリテーション合同研究大会 金沢 / JADC シンポジウム

通所リハビリテーションにおけるサービスの質の向上をめざした業務改善を考える

まず、長江先生の講演を通して、医療・介護現場における人材確保や働き方改革が求められる現在において、ロボット、AI、ICT 等のデータヘルス改革、タスクシフティング、シニア人材の活用推進、組織マネジメント改革、経営の大規模化・協働化が必要となってくることを改めて実感することができた。さらに、これらの内容について、具体的にパイロット事業が取り組まれていることは、初めて知ったので、今後はますます真剣に検討しないといけないことを痛感した。

次に３施設における事例紹介では、実際に自分の施設で実施できそうなものから、導入は少し難しいと感じる内容まで様々であった。通所リハビリテーションは、サービス提供時間が１－２時間から７－８時間までと多岐にわたり、利用者も軽度者から中重度者までと各施設で特徴が異なる。そのため、具体的な生産性向上のためには、自身の施設の特徴を踏まえた改善が必要と感じた。しかし、業務改善を行う上で、どのようなプロセスを踏むかは、各施設の取り組みが大変参考になった。

最後にシンポジストのディスカッションで、業務改善の先には利用者のサービスの質の改善があると話があった。私も常に利用者のサービスの改善のための業務改善と考えていた。しかしその一方で、「業務改善で確保できた時間は、スタッフの働くための余裕として確保しておくことも大切である。そしてその余裕が間接的に利用者サービスの質に結びつく可能性がある」といった内容は、大変感銘を覚えた。管理者としては空いた時間は全て直接的な生産に結びつく業務にあててしまいがちである。しかし今後は業務改善による職員の余裕から生まれる生産性の向上も考えたい。

医療法人社団永生会 介護サービス スマイル永生
理学療法士 三宅 英司

活動と参加してみた! @ リハビリテーションマネジメント研修会 / 様態別プログラム研修会

「参加したくなるようなリハビリテーション会議」が開催できることを目標に

２日間に渡りリハビリテーションマネジメント研修会と様態別プログラム研修会に参加してリハビリテーションマネジメントで最も重要なことは「目標設定をどれだけ明確に、個別性を持って行えるか」であるとの学びを得ました。利用者の目標達成や修了のためには本人の自律性、心身機能の安定、居場所・役割の各要素にバランス良く働きかけることが重要です。私自身は居場所・役割などの社会参加の場を意識させるよう心がけていたつもりでしたが、押しつけでない個別性のある目標設定となるようさらに深く追求することが必要であると感じました。

２日目の実践事例で登壇いただいた高橋先生より、個別性を持った明確な目標設定を行うためには利用者の人生観を理解することや、自己肯定感を高められるような支援が求められるとのお話がありました。そしてなにより､その人の「人のつながり」に着目する事が必要との言葉を聞いて、主体的な活動と参加を支える人的環境を整えることの大切さを理解できました。また、多くのグループワークを通して参加者の方々と現状の課題や今後の目標、具体的な解決策について意見交換できたことも大変参考になりました。

活動・参加とそれを支える人とのつながりを提案できる「参加したくなるようなリハビリテーション会議」が開催できることを目標に、今後の業務に取り組みたいと思います。

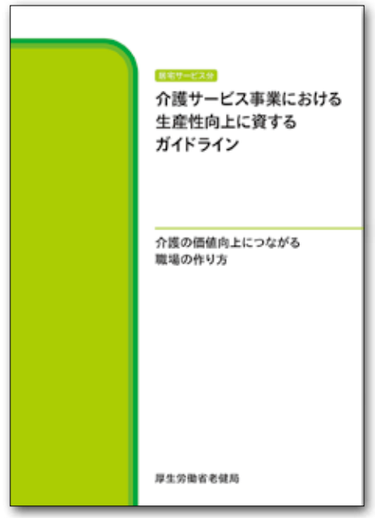
医療法人社団　坂梨会介護老人保健施設　愛・ライフ内牧
理学療法士 杉本 裕美

トライ

“介護サービスの質の向上に向けた業務改善の手引き”について。

本誌 008 号において紹介し、先のリハケア金沢の主催者団体シンポジウムにおいても JADC で本事業を通じてサービスの質の向上に向けた業務改善に関して皆さんと討論を展開し注目を集めた。しかし、当日のアンケートより、当事業の認知度が高くないことが判明した。当事業は通所リハに携わる者だけのものではなく、多岐にわたる分野でトライされ、確実な成果を遂げている。ぜひ厚生労働省のホームページを訪ね、自身の事業所と照らし合わせ実践してみてほしい。

ガイドラインは、大きく施設サービス、居宅サービス、医療系サービスと分かれており、介護サービスにおける生産性向上のとらえ方、業務改善の具体的手法、そして事例集で構成されており、さらにはツール集が巻末に用意されている。このガイドライン制作に携わった立場としては手前ミソにはなるが、かなりの優れモノ、業務改善の一助になること必至と断言してもよいだろう。



【厚生労働省の当該ページはコチラ↑】

www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000198094_00013.html

JADC の研修会、現在、過去、そしてこれから

時代が令和となり様々な面においてターニングポイント、次のステップにいこうという機運が高まっています。JADC で展開している各種研修会もそう。あらためて JADC の大きな魅力のひとつである研修会を岡野英樹 JADC 研修認定委員会担当理事が解説します。

常に４つの普遍的機能が根幹にあることを考えて。

全国デイ・ケア協会（以下、当会）では、会員施設のみならず、全国の通所サービス事業所の適正運営や、そこに従事する医療や介護の専門職の質的向上を目指した各種研修事業の企画・運営を、委員会組織（研修認定委員会）として行っています。協会設立時より研修会を中核的事業として位置づけ、これまでサービスの質的向上だけでなく、経営や運営の効率化、地域の期待に応えるための情報発信など、多岐にわたる内容を網羅するよう努めてきました。

また、これまで受託した多くの国庫補助事業での調査研究を通じて、①認知症の方や重度者、壮年層の方など利用者層や状態像に応じたプログラムの提供に関する「**通所リハビリテーション様態別プログラム実践ガイド**」、②居宅訪問をいち早く標準化するためチェックシートを作成し、効果的な居宅訪問を行うための「**居宅訪問実践ガイド**」、③生活行為向上リハビリテーションを効果的・効率的に提供するための「**生活行為向上リハビリテーション実践マニュアル**」を発刊し、これらを普及させるための研修会も並行して開催してきました。とりわけ、生活行為向上リハビリテーション実施加算については、認知症短期集中リハビリテーション実施加算と併せて、算定するための要件として当会研修会の受講修了が位置付けられており、当会、そして研修カリキュラムに対する国からの信用性の高さが伺えます。

一方で、日本訪問リハビリテーション協会と日本介護支援専門員協会との３団体共催による研修会も毎年継続し、通所サービスの活用に向けた普及活動も積極的に展開しています。

研修内容を検討する上で重要視しているのは、当会がガイドラインに定める通所サービスの４つの普遍的機能（医学的管理、心身･生活活動の維持向上、社会活動の維持向上、介護者等家族支援）であり、私たちが提供するサービスのすべてに関係していると言えます。これらを踏まえて、リハビリテーションマネジメントに必要なリハビリテーション会議の運用や医師の効率的かつ効果的な関わり、状態像別の対応方法、通所リハ計画書の意味付けや作成方法などノウハウを学んでいただくものや、生活行為向上リハビリテーション実施加算の算定要件研修、適正な経営のための知識を学んでいただくものなど多岐に及びます。介護報酬改定の時期には、厚生労働省の協力のもと、改定内容を理解し、適切に運用するための解説セミナーも行っています。

その他にも、昨年度の診療報酬改定にて要介護者等に対する疾患別リハビリテーション（いわゆる維持期リハビリテーション）が終了したことで、通所リハビリテーションをその受け皿と考えられ、基盤整備を図るための新規開設セミナーを厚生労働省より依頼され、開催してきました。

以上のように、当会は通所サービスの普及やサービスの質的向上に向けた研修事業を担う一方で、今後ますます社会構造や地域ニーズが変化し、通所サービスへの期待も変わる中で、研修認定委員会は、とりわけ会員施設に勤務する皆様のニーズにも誠心誠意応えるべく活動していきますので、まだ入会されていない施設の皆様は、ぜひともご入会いただけるのを心待ちにしています。

JADC EVENT SCHEDULE

2020 年度の研修会の日程です。2020 年度は新しいコースも誕生するなど、さらに充実した研修ラインナップとなります。ぜひご参加ください！

【← 研修情報と申し込みはコチラ】

研修会	開催日	会場
第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 in 倉敷	7/10（金）～ 11（土）	倉敷市芸文館(岡山)
リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪 2020	11/27（金）～ 28（土）	大阪国際会議場
在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EG コース）①	5/22（金）～ 24（日）	JADC 神田事務所（東京）
在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EG コース）②	10/9（金）～ 11（日）	
在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EG コース）③	12/4（金）～ 6（日）	
在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EG コース）④	3/12（金）～ 14（日）	
生活行為向上リハビリテーション研修会 in 札幌	4/24（土）～ 25（日）	ACU-Y（札幌）
生活行為向上リハビリテーション研修会 in 福岡	9/11（金）～ 12（土）	会場未定（福岡）
生活行為向上リハビリテーション研修会 in 東京	2/19（土）～ 20（日）	会場未定（東京）
リハマネジメント研修会 in 東京	6/13（土）～ 14（日）	会場未定（東京）
リハマネジメント研修会 in 福岡	12/19（土）	会場未定（福岡）
状態・疾患別プログラム研修会 in 東京	6/13（土）～ 14（日）	会場未定（東京）
状態・疾患別プログラム研修会 in 福岡	12/20（日）	会場未定（福岡）
明日から使える！初めての通所リハ研修会 in 倉敷 NEW	7/9（木）	倉敷市芸文館(岡山)
明日から使える！初めての通所リハ研修会 in 東京 NEW	1/23（土）	会場未定（東京）
経営戦略研修会 in 東京 NEW	1/24（日）	会場未定（東京）
介護報酬改定セミナー	3/19（金）	会場未定（東京）
第 8 回スキルアップセミナー	3/20（土）	会場未定（東京）

注目 Attention

EXPERT GENERALIST COURSE

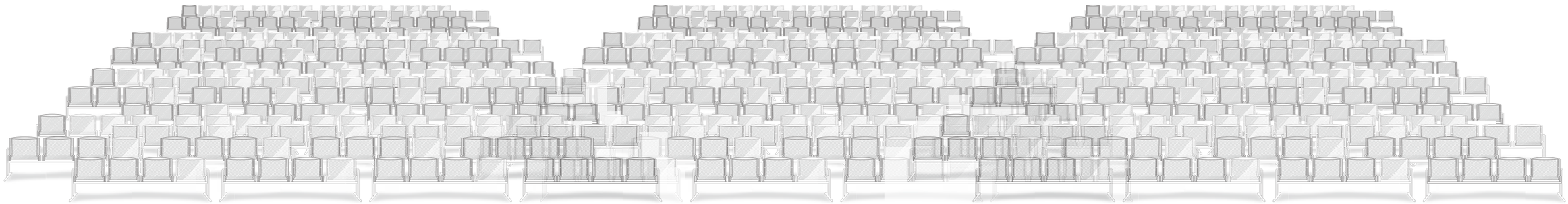
在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリストコース新設

当会では 2020 年度より、「在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリストコース（在宅リハ EG コース）」を新設します。多様な知識・技術が求められる在宅リハビリテーションにおいて、自職種の知識のみに捕らわれず、あらゆるケースに対しオールラウンダーに対応可能な在宅リハビリテーションマスターを育成し、生活期（在宅）リハビリテーションの質の向上に寄与することを目的としています。

当会会員施設の専門職で経験８年以上の方を対象に、2020 年５月よりスタートし、１クール３日間を４クール開催します（４クールすべて受講していただきます）。プログラムは、在宅リハビリテーションに関する総論から幅広い分野の各論を網羅するため、各分野の専門家に講師としてご登壇いただき、講師とのディスカッションやグループワークを通じて見識を深める内容となっています。

他にはない充実したセミナーとなっていますので、当会ホームページをご確認の上、奮ってご参加ください。

※『エキスパートジェネラリスト』とはビル・ゲイツも提唱し以下の効果があるといわれている。
1）特定の分野やコミュニティに偏るバイアスの影響を受けにくいことから、より正確な予測、判断ができる。
2）ある分野で上手くいった事例を別の分野に横展開で生かすことで、画期的なアイディアを生み出せる。
3）エキスパート･ゼネラリストが異なる分野の人たちのコネクターとなって繋ぐことで、よりオープンなネットワークを築ける。



meet our friend

会員施設自己紹介

医療法人おまち整形外科医院
地域リハビリテーションセンター

〒703-8204 岡山県岡山市雄町 281-6　TEL：086-278-3300
http://omachiseikei.com

多施設連携強化した短時間、目標達成・自立支援型の通所リハビリテーションを提供。

最短でのゴールを二人三脚で目指す

当院は岡山県岡山市中区において要支援又は要介護の方に、できる限り自宅で自立した日常生活を送っていただくために、多施設多職種協働のもと専門的なリハビリテーションを提供させて頂いています。人生を最後まで“生きていて良かった”と思える時間が少しでも持てるよう、私達、おまち整形外科医院デイケアでは皆様の生きがいのある生活に向けてお手伝いをさせて頂きたいと願っています。

現在、午前･午後 100 分ずつ、1 日 2 回の営業をしています。退院後早期の方はもちろんのこと、外来疾患別リハビリテーションからの移行や明確な目標をお持ちの方が卒業を目指して利用頂いています。その為､利用前調査や通所リハビリテーション計画を入念に行い、利用者の多くは目標･目的をスタッフと共有し、有意義に利用頂けます。通所リハビリテーションだけでは難しいことは、訪問リハビリテーションも併用頂くことで最短でのゴールを二人三脚で目指します。

ひとりひとりの歴史を大切にしたリハ・マネジメント

当院では地域包括ケアシステムの実現に向けて地域リハビリテーションの中核施設を担うべく、地域の医療・介護の関係機関と連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくりを推進しています。

当院医師は整形外科の専門医であるとともに、認知症サポート医の資格も有しており、認知症予防に対する取り組みにも力を入れています。また、脳血管疾患・難病・がん等の利用者についても多数の関係病院と協働で安全・安心なリハビリテーション提供体制を構築しています。「最近つまずくことが多くなった」､「歩きにくい」､「物忘れが心配」など、皆様が日頃感じているお悩みを少しでも解決できるようスタッフ一同協力しながら業務に当たっています。皆様の立場に立ち、考え、誠実に対応していきたいと考えています。

小規模だからこそ地域に出ていき、より大きな夢を持ち、短時間型だからこそ個別リハビリでなく、ひとりひとりの歴史を大切にしたリハビリテーションマネジメントを実施しています。

そうだ、倉敷に行こう

第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 in 倉敷

2020 42nd Day Care Studies Convention in Kurashiki
2020 年 7 月 10 日（金）～ 11 日（土）@倉敷市芸文館

やる気とつながり！

地域共生社会での通所ケアの役割

認知症や障害を持っていても暮らせる地域共生社会の実現に向けて

団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年に向けて地域の特性に合った地域包括ケアシステムの構築が求められています。その中で迎える今大会のテーマは、“やる気とつながり”です。

本研究大会が、地域包括ケアシステムの成熟と地域共生社会の実現に向け、在宅リハビリテーションの立場から、私たちひとりひとりが主体性をもち、多職種・他事業所・地域とより強いつながりをつくることができる学びの場となれば幸いです。

福嶋 啓祐大会長

また、今回の研究大会から、より多くの立場や視点から演題を発表していただくことで、新たな刺激を感じていただきたいと思い､演題応募資格を緩和しました。応募資格については、大会ホームページ（↘ QR コード）でご確認ください。

大会会場の倉敷市芸文館の隣には美観地区があります。美しい白壁と格子窓の屋敷、倉敷川沿いの柳並木など情緒豊かな街並みは、そぞろ歩きが楽しめます。7 月の倉敷は、桃やマスカット、美星牛や千屋牛、瀬戸内の海の幸など、皆様によろこんでいただける魅力ある季節です。

本年 7 月に皆様とお会いできることを楽しみにしています。

事前参加登録期間
2 月 3 日（月）～ 6 月 1 日（月）

演題登録期間
2 月 3 日（月）～4 月 3 0 日（木）

会　期
7 月 10 日（金）~11 日（土）

会　場
倉敷芸文館

大会長
福嶋啓祐（医療法人福嶋医院 理事長・JADC 理事）

名誉大会長
青木 佳之（岡山県通所リハビリテーション協議会会長）

実行委員長
山脇 康正（医療法人おまち整形外科医院 理事長）

大会事務局
医療法人 福嶋医院
介護老人保健施設いるかの家リハビリテーションセンター内
〒 14-0101 岡山県浅口市寄島町 16089-16
TEL：0865-54-2001　FAX：0865-54-2701
E-mail：42daycare@iruka.or.jp
担当：仲松・米谷

【大会ホームページはコチラ】

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

介護、デイ・ケアサービスの追求

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、全国のデイ・ケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供を目的とし開設、20 年にわたり活動を続けて参りました。

近年、通所系サービスの役割は急速に高まり、介護予防・認知症疾患・重介護者等、様々な対象者層へのリハ・ケアの提供が求められるようになってきました。

制度的には多くの課題を抱える中、運営の適正化と質の向上、関係機関との連携、住民への啓発等をより公的な立場で取り組んで参ります。地域包括ケアシステムの構築が推進される中、病気や障害のある人たちが尊厳をもってその人らしく生きていくことの出来る社会を目指し、通所系サービスの組織としてその活動に取り組んでいく次第です。

協会認定制度のご案内

当協会では、研修体制の整備とともに認定のあり方について検討を重ね、平成 25 年度より協会認定制度を開始いたしました。通所系サービス (通所介護・通所リハビリ等) の質の向上、利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動への支援を行い、地域リハビリテーションの普及・啓発を促すことを目的に、管理者及び事業所を対象とした協会認定制度を創設いたしました。

認定管理者とは、「通所系サービスの中心的な役割を担う者として、必要な専門知識・経験・技術を有することを認められた者」としました。

認定事業所とは、「事業所として満たすべき基準をはじめ、取り組みや特色・方針が認められた施設」としました。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 14 番地千代田寿ビル 3 階 303 号室
TEL：03（5207）2710　FAX：03（5207）2711
E-mail：info@day-care.jp

編集後記

東京では毎年この時期には降雪によりデイケア運営に頭を抱えていましたが、本年は暖冬で、そのような問題もなく無事にデイケアが営めております。

さて今号では、二人の副会長のデイケアへの想いがこもったご挨拶がございます。暖冬ではございますがさらに気持ちが暖かくなると思いますのでぜひご一読下さい。

また研修におきましても「在宅リハ EG コース」という在宅現場でオールラウンドに対応できるスタッフの育成を目指す研修も新設し、他研修も新設のものがございます。研修会日程もぜひご確認し、一度研修会に参加して頂ければと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

多良 淳二（JADC 理事）
介護老人保健施設イマジン リハビリ科 係長

http://www.day-care.jp

デイケアニュース 09号　2020年2月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 広報委員会